

「令和6年度移行戦略策定・エンゲージメント実践プログラム（金融機関向け）」成果報告会

ひろぎんホールディングスにおける 移行計画の検討と開示

2025年3月7日



 ひろぎんホールディングス サステナビリティ統括部



1. はじめに

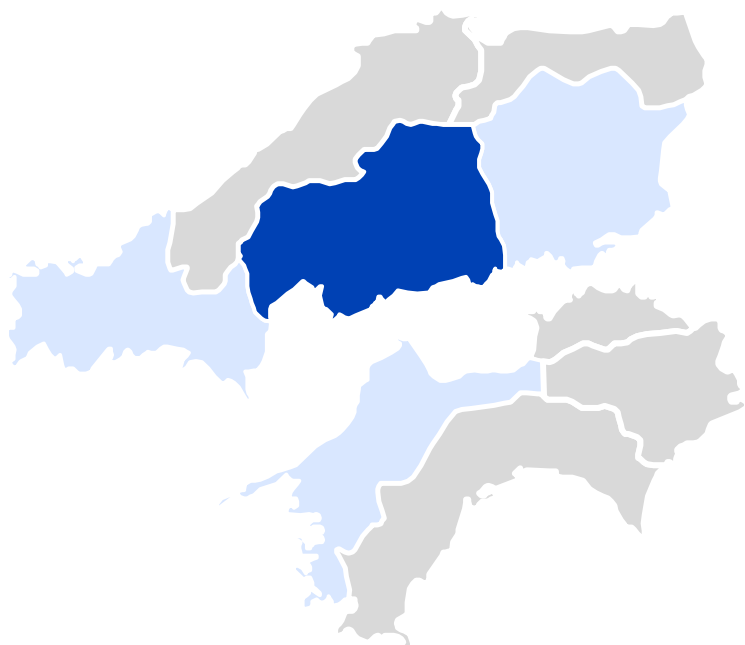
- 2. これまでの振り返り（2021年度～2023年度）
- 3. 移行計画の検討・開示（2024年度上期）
- 4. 移行計画に基づく対話（2024年度下期）

1. はじめに

(1) 課題認識



広島県を中心とした地元4県は、ものづくりが盛んである地域特性上、温室効果ガス排出量が多い



自動車

海運・造船

etc

都道府県別のCO₂排出量ランキング (2019年度)

順位	都道府県	排出量 (百万t-CO ₂)
1	千葉県	64.3
2	愛知県	64.2
3	東京都	64.1
4	神奈川県	58.5
5	北海道	50.0
6	兵庫県	46.5
7	広島県	44.0
8	大阪府	40.7
9	岡山県	38.6
10	茨城県	38.1
全国平均		21.0

順位	都道府県	排出量/人口 (t-CO ₂ /人)
1	大分県	23.5
2	岡山県	20.4
3	山口県	19.6
4	和歌山県	16.5
5	広島県	15.7
6	茨城県	13.3
7	三重県	11.9
8	愛媛県	11.7
9	千葉県	10.3
10	青森県	10.0
全国平均		7.8

出所: 環境省「部門別CO₂排出量の現況推計」、総務省「人口推計」より当社作成

自然環境のサステナビリティの観点のみならず、地域産業のサステナビリティの観点からも、
地元地域と共存共栄の関係にある〈ひろぎんグループ〉にとって、
地域のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みは避けて通れない！

1. はじめに

(2) 中長期目標



地域のカーボンニュートラル実現に向けて、温室効果ガス排出量削減の中長期目標を設定

	目標年度	目標内容
スコープ1・2	2030年度	カーボンニュートラルの達成
スコープ3	2050年度	カーボンニュートラルの達成
サステナブル ファイナンス	2021年度～2030年度	累計2兆円実行 (うち、環境ファイナンス1兆円実行)



〈ひろぎんグループ〉のカーボンニュートラルへの本気度を示していくためにも、
「できるか/できないか」より、「やるか/やらないか」に検討軸を置き、野心的な目標を設定

1. はじめに

2. これまでの振り返り（2021年度～2023年度）

3. 移行計画の検討・開示（2024年度上期）

4. 移行計画に基づく対話（2024年度下期）



環境省公募支援事業への採択・参画等を通じて、3事業年度に亘って段階的にTCFD対応を進展

2021年度
影響理解

気候変動リスク・機会のシナリオ分析パイロットプログラム

- ・ 銀行セクターにおける気候変動リスク・機会の理解
- ・ 「自動車」「海運」セクター等の気候変動リスク・機会の分析

Why

2022年度
現状把握

ポートフォリオ・カーボン分析パイロットプログラム

- ・ 事業性融資ポートフォリオにおけるCO2排出量の計測・算定
- ・ 「自動車」「海運」セクター等のCN対応状況の把握

Where

2023年度
実践

エンゲージメント実践プログラム

- ・ 個社別のエンゲージメント支援のノウハウ・知見の蓄積
- ・ エンゲージメントツール・方法の高度化・追加制定
- ・ 次期中期計画におけるエンゲージメント戦略の検討

What

How



他方で、TCFD開示の観点から、昨年度末時点で様々な課題が山積(→2024年度のスタートライン)

Why

① 「そもそも、何のため？」を改めて捉え直す必要性

- 新中期計画(2024年4月～)の策定を踏まえて、TCFD開示をどのように刷新する？
- 東証要請を踏まえて、企業価値向上との関連性をどのように捉える？

Where

What

How

② 「総論」から「各論」への焦点の移行

- 地域特性を踏まえたエンゲージメント方針をどのように打ち出す？
- スコープ3ネットゼロに向けた進捗をどのように示す？

When

Who

③ 戦略の「実効性/実現可能性」への期待感を高める開示の充実

- 2050年度目標に向けたマイルストーンをどのように示す？
- カーボンニュートラル実現に向けた当社グループの組織としての強みは？
- 社内浸透・人材育成の取組みをどのように打ち出す？

1. はじめに

2. これまでの振り返り（2021年度～2023年度）

3. 移行計画の検討・開示（2024年度上期）

4. 移行計画に基づく対話（2024年度下期）



投資家からのフィードバックに応じていく観点から、移行計画フレームワークに沿った開示を検討

課題感

従来のTCFD開示の延長線上で
**投資家を中心としたステークホルダーから
本当に評価される？**



重視した ポイント

TCFD開示の主要な読み手として想定する

投資家からのフィードバックをいかに集め、いかに応えていくか

- IR部門との連携
- TCFDコンソーシアムのラウンドテーブル（事業会社と投資家の対話の場）への参加
- 好開示例の情報収集

3. 移行計画の検討・開示
(2) 全体像

5W1Hの観点から、投資家からのフィードバックに対してどのように応えていくかを中心に深掘り

野心性 (Ambition)	1. 基礎	移行計画の目的 活力ある地域の実現 企業価値の向上 移行計画の主眼（企業価値向上のドライバー） 投融資ポートフォリオの気候変動リスクの低減 地域産業のレジリエンス（強靱性）の向上 脱炭素ファイナンスニーズの取込み 目指す姿／アプローチ 当社グループ自身の脱炭素化の実現 お取引先企業の脱炭素化の促進・支援 地域を挙げた脱炭素社会への円滑な移行				Why
	2. 実行戦略	オペレーション 当社グループのCNに向けた対応 ・ 省エネの更なる推進 ・ 動力源の電動化 ・ 再エネ電力の活用 商品・サービス お取引先企業のサステナビリティ経営の促進・支援 サステナブルファイナンスの推進 方針 サステナビリティ基本方針 〈ひろぎんグループ〉SDGs宣言 環境方針／人権方針 投融資ポリシー 財務計画 気候変動機会・リスクの財務影響について段階的・継続的に開示を充実	Where			
行動 (Action)	3. エンゲージメント戦略	お取引先企業へのエンゲージメント エンゲージメント方針策定／ツール整備 ・ 優先対象先の見直し ・ 無償のCO₂排出量簡易算定ツールの導入 自動車／船舶セクターへのエンゲージメント 優先セクターとしてのエンゲージメント強化 ・ 省エネ・再エネ・CN燃料の取組みに応じたソリューションの拡充検討（自動車） ・ ポセイドン原則に基づく対話（船舶） 地域へのエンゲージメント 地域中核企業・自治体等との連携強化 生物多様性や資源循環との組み合わせによる地域の脱炭素化に向けた取組み		What		
	4. 指標と目標	温室効果ガス排出量 スコープ1・2・3ネットゼロ（～2050） うち、スコープ1・2ネットゼロ（～2030） うち、スコープ2ネットゼロ（～2028） サステナブルファイナンス実行額 累計2兆円（2021～2030） うち、環境ファイナンス累計1兆円（2021～2030） うち、広島県内累計1,800億円（2024～2028）	How			
説明責任 (Accountability)	5. ガバナンス	監督と執行 取締役会やグループサステナビリティ推進委員会等にて進捗を監督 サステナビリティ統括部を新設 企業文化・インセンティブ グループSDGs活動特別表彰 サステナビリティ経営支援取組表彰 → 各組織・各人の業務／役割に応じた意識・行動変化を促進 スキル・能力・トレーニング 社内浸透／人材育成 → 従事者の“腹落ち感”を得るための取組強化 → 環境省認定制度「脱炭素アドバイザー」資格の取得推進（目標：1,000名以上）		When		
					Who	

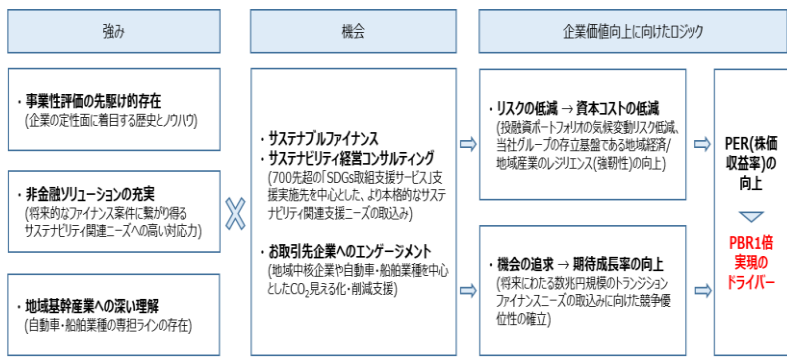
Why

悩んだ点

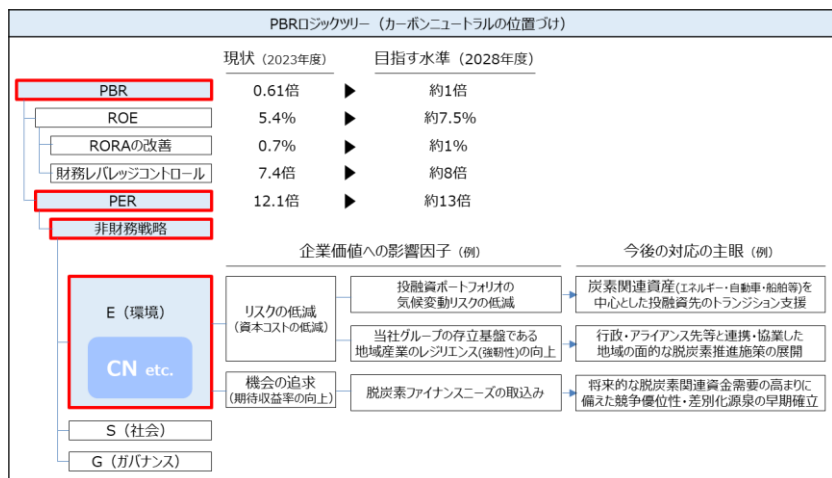
企業価値向上との関連性をどうやって示す？
（「So What？」へ答えられないと、投資家には刺さらない？）

検討・開示
内容(例)

- 新中期計画策定に合わせて**取組みの主眼をシフトした点を明記**
（＝「社会的要請への対応（外部起点）」から「企業価値向上に向けた実践（内部起点）」へ）
- ・ 経営戦略（新中期計画）における位置づけ
 - ・ PBRロジックツリーとの関連性



「社会的要請への対応（外部起点）」から「企業価値向上に向けた実践（内部起点）」へ取組みの主眼をシフトさせ、当社グループがこれまで培った「地域総合サービスグループ」としての総合力を発揮していく



Where

悩んだ点

地域特性をどうやって示す？
(地銀セクターの場合、主語を隠しても成り立つ開示はNG？)

検討・開示
内容(例)

地域基幹産業である自動車・船舶セクターへの取組みについて記載拡充

- ・ セクター別のエンゲージメント施策
- ・ 代表的な取組事例 (自動車部品製造における鋳造工程のカーボンニュートラル推進に向けた支援の検討)

(資源循環(サーキュラーエコノミー)×脱炭素(カーボンニュートラル)の取組み)

▶ 広島銀行では、2023年度において、環境省公募支援事業「令和5年度地域におけるESG金融促進事業」の採択・参画を通じて、牡蠣殻を活用した自動車部品製造における鋳造用バイオマス燃料のサプライチェーン構築に向けた検討・対応を行いました。

▶ 自動車の製造工程において、鋳造はCO₂排出量の約2割を占めている環境負荷の高い工程です。特に、鉄を溶かす溶解工程では燃料である石炭・コークスの燃焼により多くのCO₂が排出されています。そこで、地場鋳造サプライヤーはカーボンニュートラル達成に向けて石炭・コークスの代替となるバイオマス燃料開発を進めています。

▶ 広島銀行は、このバイオマス燃料開発の取組みに対して、燃料の素材探索と安定供給に向けたサプライチェーンの構築を支援しています。具体的な取組みとしては、広島県の特産品である牡蠣殻の善処に使用される「牡蠣殻」に着目し、牡蠣殻の廃材を再利用した燃料製造のサプライチェーン構築の検討を進めています。

▶ さらに、このバイオマス燃料の「地産地消」の仕組みが実現できれば、牡蠣殻廃棄事業者の課題である牡蠣殻の廃棄問題の解決にもつながることが見込まれます。地域内でのサーキュラーエコノミー構築に資する取組みとして、牡蠣殻以外の地域のカーボンニュートラル燃料の探索も含め、サプライチェーンの実現に向けて引き続き注力して参ります。

※1：原材料を熱点より高い温度で熱して液体にした後に型に流し込み、冷却して目的の形状に固める金属加工方法
※2：廃棄物や未利用資源を炭化し、バイオマス燃料を製造する取組み

■ 環境省公募支援事業「令和5年度地域におけるESG地域金融促進事業」(2023年度)での広島銀行の取組み(概要)

タイトル	自動車部品製造における鋳造工程のカーボンニュートラル推進に向けた支援の検討について
背景・目的	① 自動車の製造工程において、鋳造工程からのCO ₂ 排出量が占める割合は大きい。 ・ 広島県に本社を置く特定排出事業者の上位20社のうち自動車関連企業が5社 ・ そのうち鋳造工程を有する企業が4社 → 鋳造事業者のCO ₂ 排出量削減が地域のカーボンニュートラル推進に寄与 ② 県内の鋳造メーカーは鋳造炉の燃料である石炭・コークスのバイオマス燃料への置換(バイオマス燃料の素材探索・サプライチェーン構築を含む)を探索を行っており、候補となり得る資源はあるものの、必要量には不足する可能性があるが、安定供給可能なサプライチェーン構築には至っていない。 ③ 地域内で未利用となっているバイオマス資源を活用したバイオマス燃料製造サプライチェーンの構築を目的に、調査・検討を行う。
実現したい将来像	地元の基幹産業である自動車産業の持続可能な成長の実現 地域資源を活用した循環型経済の構築

出所：環境省「ESG地域金融実践ガイド3.0」(2024年3月)を基に当社作成

第6回ESGファイナンス・アワード・ジャパン
「特別賞(選定委員長賞)」受賞



What

悩んだ点

比較可能性だけでなく、**独自性**をどうやって示す？
(真面目過ぎる／教科書的過ぎると言われないためには？)

検討・開示
内容(例)

サステナビリティ／カーボンニュートラル関連の**非金融支援面を強調**

- ・ 当社グループの歴史・特徴との関連付け（事業性評価、持株会社体制移行等）
- ・ 代表的な非金融ソリューション（サステナビリティ経営導入サポートサービス等）

■カーボンニュートラルをはじめとしたサステナビリティ経営の促進・支援メニューの概要（全体像）



3. 移行計画の検討・開示
(3) 個別の検討・開示内容(例)

WhenHow

悩んだ点

実効性/実現可能性をどうやって示す？
(2050年度ネットゼロ実現に向けた進捗・課題と今後の対応策は？)

検討・開示
内容(例)

ファイナンス・エミッションやエンゲージメント進捗に関する定性・定量情報

- ファイナンス・エミッション（+お取引先企業のCN対応状況ヒアリング結果）の推移
- 上記に対する課題認識と今後の対応方向性
- エンゲージメント方針／エンゲージメントツールの詳細

2024年度のエンゲージメント方針

対象先	2024年度における対応方針
ニーズ顕在化先	ファイナンス・エミッション上位業種（一定規模以上）
ニーズ顕在化していない先	営業店主体によるお取引先企業とのエンゲージメント継続によるニーズ深堀の徹底
ニーズ未把握先	エンゲージメント継続により把握した個別ニーズに応じた金融・非金融ソリューションの拡充・提供
	事業性評価を軸としたサステナビリティ/カーボンニュートラルにかかる対話強化による啓発・情報提供
	地域におけるカーボンニュートラル取組機運の醸成に向けた地公体等との連携強化

中長期的に目指すエンゲージメント方針

対象先	担い手
本部主導で積極関与すべき先	本部専担者 + 営業店（支店長）
営業店主導で関与すべき先	営業店（管理職・責任者）
その他の先	必要に応じ本部がサポート 営業店（責任者・担当者）

ツール名	汎用ドアブックツール 見直し	簡易算出ツール 新規作成	特定先への提案書 新規作成
ツール作成経緯	カーボンニュートラル対応にかかるご提案 ・カーボンニュートラルにかかる「背景」や「必要性」を理解する入門書的な位置づけとして作成	CO ₂ 排出量算出ツール（無料） ・既存ツールでは反映できていないカーボンニュートラルへの取組の必要性にみて、「実際の排出量の算出」が業種別に特化した情報を提供することで、その取組を促すことを企図して作成	業界動向・排出実績把握ツール ・内容が大手企業の情報中心となり、中小企業の情報が少ない
従来の課題認識	・一般論的な内容に留まっており、個社の取組を促すには至っていない	・CO ₂ 見える化はコスト・労力の面で取組みハードルが高い	
ツールイメージ図			

Who

悩んだ点

社内浸透/人財育成をどうやって示す？
（“主語”が感じられない開示は説得力がイマイチ？）



社内浸透／人財育成に関する個別ページの追加

- ・ 環境省認定制度「脱炭素アドバイザー」資格の目標人数
- ・ 社内浸透・人財育成に関する主な施策一覧

検討・開示
内容(例)

当社グループ従事者のカーボンニュートラルの“自分事化”により目指す姿	
① グループ全従事者が、当社グループのカーボンニュートラルの取組みについて、“自分事”として、関心を持ち、理解している状態	
② グループ全従事者が、各組織・各人の業務／役割に応じて、当社グループ／お取引先企業／地域のカーボンニュートラルの実現に向けて、“自分事”として、自らに出来ることを考え、行動に移している状態	
社内浸透の主な取組事例	人財育成の主な取組事例
➢ トップメッセージ ・ 動画配信・社内イントラへのメッセージ文掲載 ・ グループ全社会議・全店支店長会議等での各部店長等への経営意思の周知徹底 ➢ 社内研修 ・ 階層別研修（新任管理職、新任監督職、新入職員向け） ➢ 社内セミナー／勉強会 ・ e-ラーニング形式の一斉勉強会 ・ 各支店単位等での自発的な勉強会 ・ 外部有識者と営業店職員のWeb座談会 ➢ 社内イントラでの定期的な情報発信（ニュース配信） ・ 当社グループ自身の取組紹介 ・ 統合報告書・TCFDレポートの周知・解説等 ➢ 表彰 ・ グループSDGs活動特別表彰	➢ 役員トレーニングセミナー ・ サステナビリティをテーマとした役員勉強会（社外役員含む） ➢ 社内研修 ・ 業務別研修（法人責任者・担当者向け等） ➢ 社内インターン制度 ・ 営業店職員等のサステナビリティ担当部門へのインターン受入 ➢ 資格取得推奨 ・ 環境省認定制度「脱炭素アドバイザー」資格 ➢ 外部出向 ・ 専門人財育成に向けた外部機関への出向者派遣 ➢ 社内イントラでの定期的な情報発信（ニュース配信） ・ ソリューション紹介、取組好事例共有 ・ カーボンニュートラル関連の業種別・テーマ別レポートの配信 ➢ 表彰 ・ サステナビリティ経営支援取組表彰

1. はじめに
2. これまでの振り返り（2021年度～2023年度）
3. 移行計画の検討・開示（2024年度上期）
- 4. 移行計画に基づく対話（2024年度下期）**



移行計画の要素を盛り込んだTCFD開示に対する投資家フィードバックの収集を企図

課題感

頑張ってTCFDレポートの質と量の向上を図ったつもりでも、
投資家が求める期待・ニーズに沿っている？
そもそも本当に読んでもらえている？



重視した ポイント

今後の高度化・改善に向けた手がかり・ヒントを得るために、
投資家（活用側）との間の期待・認識のギャップをいかに自覚できるか



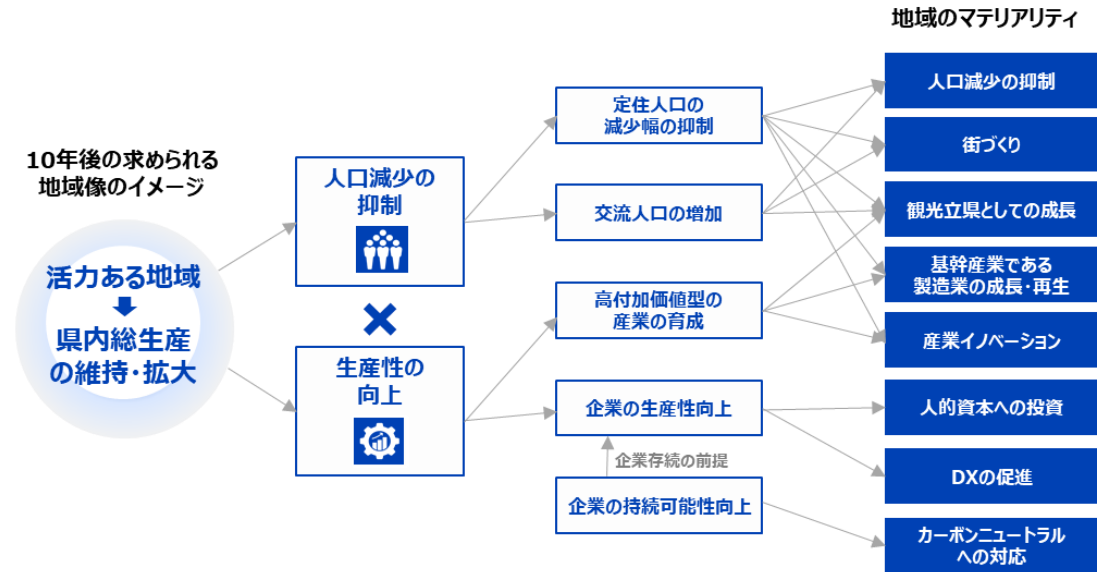
具体的な アクション

- **機関投資家（ESG関連部門）との個別面談**
- 経営陣・IR部門のみならず、関連部署への上記フィードバック内容の還元
- 機関投資家（ESG関連部門）と営業店職員とのESG金融座談会の実施

移行計画の初期版を策定・開示したものの、次の様々な課題が山積 (→2025年度のスタートライン)

① 単独テーマ化しない
(より俯瞰して捉える)

- 他のESG課題との関連性
- 他のマテリアリティとの関連性



② リスクのみならず、機会に関する開示充実が必要

- 財務インパクト (株主視点) に関する定量情報の開示拡充
- 社会インパクト (マルチステークホルダー視点) に関するロジックモデルに即した開示拡充

③ ファイナンスド・エミッション情報の算定・開示拡充が必要

- 短中期目標設定に向けた検討
- 算定対象アセットクラスの拡大とデータクオリティスコアの向上
- ファイナンスド・エミッションを補完するモニタリング指標の設定 (エンゲージメントの進捗度合いを定性的に捉える指標)

ご清聴

ありがとうございました！

